

令和元年6月7日	
資料提供	
担当課(室)	県立博物館 学芸課
担当者	主査学芸員 坂本亮太
電話	073-436-8670 (代表)
E-mail	admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp

貴志川流域の魅力 再発見！

企画展「高野山麓^{にしはし}の西端で一貴志川流域の文化財一」の開催について

和歌山県立博物館では、令和元年（2019）6月8日（土）から同年7月7日（日）の会期で、企画展「高野山麓の西端で一貴志川流域の文化財一」を開催します。

この企画展では、貴志川流域に残された文化財から、貴志川流域の歴史や文化の魅力に迫ります。特に近年、博物館で調査し、また近年寄贈・寄託を受けた文化財を中心に展示します。展示資料の点数は、全51件89点（うち重要文化財1件1点、紀美野町指定文化財1件1点）です。

【みどころ1】 初公開！ 丹生神社^{たんじょうじんじや}の神像

貴志川は、平安時代から江戸時代において、高野山金剛峯寺の領地の西境と認識されてきました。そのため、高野山金剛峯寺は貴志川流域の村々と深い関係を結んでおり、特に高野山、弘法大師や丹生明神^{にうみょうじん}に関わる信仰が、流域の村々には濃厚に残っています。しかも、貴志川流域には丹生神社が多く祀られているのも特徴的です。

貴志川下流域の東岸、紀の川市貴志川町北には、丹生神社が祀られています。近年、この丹生神社に南北朝～室町時代の丹生明神像^{にうみょうじんぞう}・高野明神像^{こうやみょうじんぞう}が残されていることが明らかになりました。今回の展示で初公開いたします。



丹生明神像【展示番号17】



高野明神像【展示番号17】

【みどころ2】 初公開！ 貴志川下流域の旧家・橋口家資料

貴志川下流域の旧家・橋口家には室町時代から昭和時代までの古文書類約 500 点が残されています。今回、橋口家の資料を調査する機会を得ましたので、その調査成果を速報的にご紹介いたします。

橋口家は、紀北・泉南地域の村々の祭りで神事能（「翁」）を舞い、奉納した「貴志大夫」の家として有名です。実際、資料のなかには面や狩衣など、能関係の資料が残されていました。また、室町時代以来、数度にわたって高野山を戦乱から守った家としても知られています。高野山との関係を物語る古文書も多く残されており、なかには、伊達政宗の書状や、木食応其に関わる古文書なども残されています。

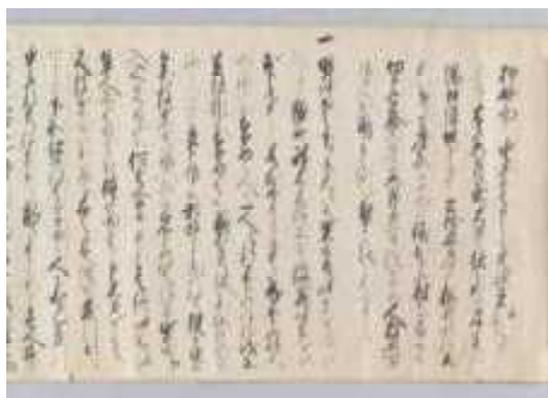
これらの資料を通じて、高野山の西端にあたる貴志川流域の歴史的、地域的な特徴をご紹介します。



おきなめん
翁面【展示番号 28】



きめん
鬼面【展示番号 29】



めん の ゆらい
面之由来【展示番号 30】



だ て まさむねしょじょう
伊達政宗書状【展示番号 45】



こんごう ぶ じ そうぶんちゅうれんししょうもん
金剛峯寺惣分中連署証文【展示番号 40】

※詳しくは別紙開催概要、チラシをご参照下さい。

展示資料一覧はホームページ上でもご覧いただけます。

ホームページ <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

◆駐車料金（博物館利用の方は最初の2時間無料、以後30分ごとに100円追加）